

VII 各圏域産地戦略プランの概要

1	仙南圏域	98
2	仙台圏域	106
3	大崎圏域	112
4	栗原圏域	117
5	登米圏域	122
6	石巻圏域	127
7	気仙沼・本吉圏域	131

仙南圏域の園芸特産振興方向

1 園芸特産の現状と課題

(共通)

仙南地域は、市町毎に立地条件を生かした特徴的な品目が栽培され、多彩な園芸品目の生産が行われています。令和元年東日本台風により、特に阿武隈川流域地域において甚大な被害が発生し、野菜・花きの生産・販売数量が減少しましたが、補助事業等の活用により栽培面積は概ね復旧しています。

今後、担い手の高齢化が一層進展する中で、大きな問題となっている鳥獣被害及び農産物価格の低迷や資材の高騰による農業所得の減少等の影響から、園芸品目の産出額の停滞が懸念されており、その再編が緊急の課題です。

(野菜)

主要野菜であるいちご、きゅうりに加え、仙南地域の特色ある品目が生産されており、つるむらさき、そらまめ、ブロッコリー、さといも等の流通量は県内上位です。販売面では、市場出荷・契約販売に加え、直売活動への取組が進んでいます。

いちごやねぎ類については新技術導入や機械化が進み、生産が拡大していますが、きゅうり、さといもなど古くからの特産品目については生産者の高齢化及び担い手不足により、作付面積、出荷量は減少傾向にあります。たまねぎ、ねぎ類については補助事業等の活用により、機械化一貫体系を導入した生産への取組が進められています。

(花き)

仙南地域は古くから花きの生産が盛んな地域で、輪ぎく、小ぎく、鉢もの類、花壇用苗もの類とも作付面積は県内上位となっています。施設・露地いずれも、県内においては産地として知られていますが、高齢化が進んでいることから、適期の栽培管理や病害虫防除が困難となっています。また、露地栽培が多いため気象等の影響を受けやすく、開花期や品質が安定しないため単位面積当たりの販売額は他地域に比べ低い状況にあり、今後産地の維持が課題です。

(果樹)

果樹栽培は、県内で最も盛んな地域で、生産者・栽培面積が最多です。果樹は、植栽から結果樹齢に達するまでに一定の期間を要し、せん定等の栽培管理には経験に伴う高度な技術を要求されるため、新規栽培者の参入が困難です。さらに、生産者の高齢化、後継者不足が進む中で、近年は気象災害や温暖化起因とみられる病虫害に見舞われ、生産力の維持やリスク分散が課題となっています。

(特用林産物)

原木しいたけは県内最大の産地でしたが、平成23年度に発生した東京電力(株)福島第一原子力発電所事故に伴う放射性物質の影響により、露地栽培のしいたけの出荷制限が未だに継続しているため、生産者が著しく減少しています。また、生産再開後も露地での生産量確保が課題となっています。菌床しいたけでは生産が安定し、地場産業として定着しています。

〔重点振興品目の生産の現状〕

区分	品目名	作付面積 (ha)	収穫量 (t, 千本(鉢))	産出額 (千万円)	区分	品目名	作付面積 (ha)	収穫量 (t, 千本(鉢))	産出額 (千万円)	
野菜	いちご	7.7	278.5	35.5	花き	輪ぎく	8.7	874.0	5.2	
	きゅうり	8.0	432.5	16.9		スプレーぎく	1.3	163.0	0.9	
	トマト	2.6	132.0	3.7		鉢もの類	4.4	289.0	10.7	
	ねぎ類	6.0	60.0	1.6		花壇用苗もの類	5.8	2,685.0	20.1	
	たまねぎ	6.7	201.0	0.8		小ぎく	3.1	519.0	2.1	
	えだまめ	3.0	12.0	0.4		トルコギキョウ	2.6	563.0	6.5	
	そらまめ	9.8	107.0	3.2		果樹	りんご	53.0	600.0	12.6
	スイートコーン	13.2	198.0	2.0	日本なし		89.2	1,400.0	32.9	
	さやいんげん	3.5	21.0	0.6	ぶどう		2.5	11.2	0.8	
	つるむらさき	4.5	203.0	6.5	小果樹類		9.6	5.6	1.2	
	ブロッコリー	34.0	83.0	3.8	もも		19.1	180.0	3.9	
	だいこん	69.1	740.0	7.4	うめ		210.3	600.0	8.2	
	にんじん	2.4	31.0	0.3	かき		225.0	206.0	8.9	
	さといも	5.4	28.7	0.8	いちじく		43.4	30.0	1.6	
	きくいも	0.9	1.6	0.1	西洋なし		3.3	46.0	1.1	
	えごま	2.4	1.2	1.2	特用 林産		しいたけ	-	29.8	2.8
	じねんじよ	0.7	5.0	0.2			たけのこ	67.0	37.0	1.9

※野菜:「H30農協販売実績」等、花き:「H30花き産業振興総合調査」、果樹:「H30特産果樹生産動態等調査」、特用林産:「H30特用林産物需給動態調査」

2 園芸特産振興の方向性

園芸産地再興に向け、重点振興品目を中心にして、機械化による省力・低コストが可能な土地利用型園芸の推進や、地域の特性を生かしてブランド化を図る地域特産園芸を促進し、仙南地域の特色ある園芸産地の再興を推進します。

「みやぎの園芸特産振興戦略プラン」(以下同様)

基本方針1：先進技術を駆使した施設園芸の推進

施設園芸については、環境制御技術等の活用や技術革新を進め、技術の定着・促進・普及を図り、より一層の高品質生産・多収化を目指します。また、市場出荷に加え、消費者と連携した新たな商品づくりなど、直売所等の多様な販路を拡大し有利販売に結びつける取組を促進します。

基本方針2：大区画ほ場を活用した露地園芸の推進

露地園芸については、農地集積や農地整備事業等と連携し、水田等における高収益園芸品目栽培の導入・推進・定着を図ります。そのため、機械化一貫体系等による効率的な作業体系を推進します。

基本方針3：食品関連産業等との連携による園芸サプライチェーンの構築

安全で安心できる農産物の供給と循環型社会への転換を進めるため、各種認証・表示制度への加入定着・拡大を図るとともに、GAPへの取組強化を促進します。また、地域ブランド品目のタイムリーなPR活動を展開し、消費者から信頼される「安心・安全」で高品質な商品の安定供給を図る等、販売促進に繋がる取組を支援します。

基本方針4：園芸産地の発展に向けた多様な人材等の確保・育成

地域の特産となっている園芸品目については、既存の産地の維持発展のため、集落営農組織等の新たな担い手の活用、技術・経営の継承を進めます。担い手・労働力不足が顕在化しており、労働力の安定確保や機械化体系の導入による栽培面積の維持を図り、産地の活性化を目指します。

Ⅲ 重点振興品目 33品目(内訳 野菜17、花き5、果樹9、特用林産2)

1 県戦略品目 13品目(内訳 野菜6、花き3、果樹3、特用林産1)

区分	品目名	振興方向
		具体的振興方策
野菜	いちご	<p>高品質生産技術の確立と安定供給力の強化</p> <p>・後継者の育成及び新規栽培者の確保・育成 ・病虫害防除の徹底による生産性の向上 ・新技術及び新品種の導入による生産性の向上 ・消費者ニーズに対応した生産技術の確立 ・6次産業化の推進 ・夏秋いちごのブランド確立</p>
	きゅうり	<p>担い手の確保による産地活性化と高品質安定生産技術の確立</p> <p>・生産力増強に向けた作付の推進 ・基本的技術の励行による生産の高位平準化 ・病虫害対策の徹底による生産性の向上 ・環境に配慮した持続的な生産の推進 ・地元市場への出荷誘導による地産地消の推進 ・多様なニーズに対応できる販売力のある産地づくり</p>
	トマト	<p>多様なニーズに対応した周年安定供給力の強化</p> <p>・新規就農者及び若手生産者の育成 ・基本的技術の励行による安定生産と品質の平準化 ・消費者ニーズに対応した生産技術の確立 ・安定した所得の確保に向けた供給のあり方と単価確保 ・産地活動の拡大による産地の活性化</p>
	ねぎ類	<p>若い担い手を核としたねぎの高品質安定生産</p> <p>・若手農業者と新たな担い手への生産振興 ・基本技術の励行による安定した生産、供給 ・長期安定出荷に向けた誘導、支援 ・農商工連携・推進 ・消費者ニーズに対応した生産技術の確立</p>

野菜	たまねぎ	<p>実需に対応したたまねぎの生産振興</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・作付誘導 ・栽培技術の向上 ・需要拡大と実需者ニーズへの対応 ・省力化支援 ・農商工連携・推進 ・流通・販売の推進 ・たまねぎ栽培による農業経営の向上と安定化
	えだまめ	<p>良食味・高品質なえだまめの生産振興</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・集团的取組の強化 ・収量と品質の安定化推進 ・長期安定出荷の実現 ・実需需要への対応推進
花き	輪ぎく	<p>省力品種・技術の導入と担い手の確保による産地の活性化</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・リーダーの育成、アドバイザー制など組織活動の強化 ・新規就農者、女性及び高齢者などへの複合経営導入推進 ・高品質安定生産の推進 ・省力化、軽労化など作業環境の改善 ・産地情報発信体制整備による販売力の強化 ・多様な販売チャネルの確立 ・ブランド化の推進 ・情報発信による消費拡大
	スプレーぎく	<p>品質向上と他品目との組み合わせによる経営安定化</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・リーダーの育成、アドバイザー制など組織活動の強化 ・新規就農者、女性及び高齢者などへの複合経営導入推進 ・省力化、軽労化など作業環境の改善 ・短茎栽培など新技術導入による生産性の向上 ・産地情報発信体制整備による販売力の強化 ・多様な販売チャネルの確立 ・ブランド化の推進 ・情報発信による消費拡大 ・消費者等との顔の見える関係構築
	鉢もの類	<p>品質向上と魅力ある品目・品種の導入による産地化の推進</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・高品質安定生産の推進 ・経営規模拡大、雇用確保による経営の安定化 ・省力化、軽労化など作業環境の改善 ・新品目導入、開花調節技術開発など生産性の向上 ・産地情報発信体制整備による販売力の強化 ・多様な販売チャネルの確立 ・情報発信による消費拡大 ・消費者等との顔の見える関係構築

花き	花壇用苗もの類	<p>実需者ニーズに合う花壇用苗もの類生産と経営安定化</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・高品質安定生産の推進 ・経営規模拡大、雇用確保による経営の安定化 ・省力化、軽労化など作業環境の改善 ・新品目の導入、新商品に合った栽培方法の確立 ・産地情報発信体制整備による販売力の強化 ・新たなニーズに対応した新品目の導入や新商品の展開等販売戦略の強化 ・情報発信による消費拡大 ・消費者等との顔の見える関係構築
果樹	りんご	<p>地球温暖化に対応した栽培技術の向上と後継者の育成</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・適期防除による生産の安定化 ・省力化技術の推進 ・既存園地の生産力維持 ・果実の着色不良対策 ・新たな商品、加工品開発支援 ・管内産果実の知名度向上 ・後継者の育成
	日本なし	<p>高品質安定生産によるブランド力の向上</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・適期防除による生産の安定化 ・既存園地の生産力維持 ・省力技術や樹形の導入による労働生産性の向上 ・輸出継続によるブランド力の向上 ・契約販売による安定出荷 ・後継者の育成 ・廃園、放任園対策
	ぶどう	<p>栽培面積の拡大と栽培管理技術の向上</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的栽培管理技術の向上 ・技術研修会等の実施 ・実需者等のニーズを捉えた出荷支援 ・醸造用ぶどう生産者の連携強化
特用林産	しいたけ	<p>消費者への安全・安心のPRと生産及び販売量の拡大</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・担い手の育成 ・生産機械・施設の整備 ・安全・安心な生産物の確保 ・消費拡大活動 ・商品開発 ・有利販売対策

2 地域戦略品目 20品目(内訳 野菜11、花き2、果樹6、特用林産1)

区分	品目名	振興方向
		具体的振興方策
野菜	そらまめ	ブランド力向上による産地の維持・発展 ・作付面積の確保と生産振興 ・連作障害対策の確立と実践 ・収量と品質の確保対策 ・ブランド力を生かした産地PR活動
	スイートコーン	消費者から信頼される高品質なスイートコーンの生産振興 ・産地の維持・発展に向けた生産振興 ・栽培管理技術の向上による生産の安定 ・鳥獣被害の軽減による生産性の向上 ・長期安定供給の実現 ・産直活動の拡大 ・消費者に支持される安全・安心な商品づくり
	さやいんげん	担い手確保によるさやいんげんの生産振興 ・産地の維持・発展に向けた生産振興 ・収量向上対策 ・連作障害回避による持続的な産地づくり
	つるむらさき	施設利用による特色あるつるむらさきの生産振興 ・生産拡大に向けた産地強化と技術向上 ・環境に配慮した産地の取組拡大 ・安定出荷に向けた産地づくりとブランド力・販売力の強化 ・顧客ニーズへの対応促進
	ブロッコリー	持続性の高いブロッコリー産地育成 ・基本技術の励行による収量向上 ・連作障害の回避 ・大規模栽培者の育成 ・長期安定出荷体制の整備 ・産地のブランド確立
	だいこん	地域振興作物としての「だいこん」の安定生産と拡大 ・産地拡大に向けた生産振興 ・基本技術の励行による安定生産 ・消費者ニーズに対応した販売戦略の構築 ・実需に対応した販売支援 ・農産加工品の生産
	にんじん	地域に合った栽培体系の確立と産地育成 ・産地拡大に向けた生産振興 ・基本技術の励行による安定生産・供給 ・農商工連携・推進 ・消費者ニーズに対応した生産技術の確立
	さといも	ブランド力を生かした信頼性の高いさといもの生産振興 ・労働力確保による生産の安定化 ・担い手の明確化による重点的な支援 ・ブランド力を活かした販売戦略による産地活性化

野菜	きくいも	「健康野菜 きくいも」の認知度向上とブランド化 <ul style="list-style-type: none"> ・柴田農林高校、関係機関との連携による生産振興 ・市町のイベント等でのPR ・直売所の連携によるPR推進
	えごま	鳥獣害の少ないえごま栽培による耕作放棄地対策 <ul style="list-style-type: none"> ・多彩な担い手への生産振興による産地の維持 ・収穫量の安定・品質確保 ・商品開発、販路拡大
	じねんじょ	ブランド力を生かした地域特産品「じねんじょ」の生産振興 <ul style="list-style-type: none"> ・収量・品質の向上 ・多彩な担い手への生産振興による産地の維持 ・ブランド力・販売力の強化
花き	小ぎく	省力的な小ぎく生産による産地の活性化 <ul style="list-style-type: none"> ・良質な苗生産の体制づくり ・需要期出荷のための生産技術確立 ・高品質生産による収益性向上 ・産地情報発信体制整備による販売力の強化 ・産地の活性化
	トルコギキョウ	地域に合った栽培体系の確立による産地の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・基本技術の習得、定着 ・地域に合った栽培体系の確立 ・高品質生産による収益性向上 ・実需者ニーズに合った品種の導入 ・市場開拓による販路拡大 ・販売体制の整備
果樹	小果樹類	ブルーベリーの基本技術の確立 <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な栽培管理技術の向上 ・果実の加工支援
	もも	改植の推進と新品種の導入による産地の活性化 <ul style="list-style-type: none"> ・改植の推進による園地の生産性向上 ・もも園土壌の改善 ・優良な新品種の導入による収益性の向上
	うめ	基本技術の徹底による高品質果実の生産 <ul style="list-style-type: none"> ・せん定方法の改善、習得 ・規格外品の減少による商品化率の向上 ・消費者ニーズに合った品種の導入
	かき	病虫害防除技術の向上による干し柿原料の安定生産 <ul style="list-style-type: none"> ・病虫害防除技術の普及による安定生産 ・低樹高栽培技術の普及による栽培管理の効率化と省力化 ・干し柿のブランド化支援
	いちじく	基本的な栽培管理技術の向上による高品質果実の生産 <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な栽培管理技術の向上 ・カミキリムシ類防除の徹底による安定生産 ・イチジク株枯病対策 ・熟期促進技術による有利販売 ・生食用品種の導入による消費の拡大 ・実需者等へのPR

果樹	西洋なし	基本的な栽培管理技術定着及び高品質果実生産への支援
		<ul style="list-style-type: none"> ・基本的栽培管理技術の向上 ・情報発信による消費拡大
特用林産	たけのこ	ブランド力を生かした信頼性の高いたけのこの生産振興
		<ul style="list-style-type: none"> ・労働力の確保や機械化体系の導入による生産の安定化 ・ブランド力を生かした販売戦略による産地活性化

仙台圏域の園芸特産振興方向

1 園芸特産の現状と課題

東日本大震災により、管内の園芸主産地であった沿岸地域は壊滅的な被害を受けましたが、その後の復旧・復興により先進的な園芸施設の導入や大規模施設園芸団地の整備、整備された畑地による大規模土地利用型露地園芸が拡大し、平成30年度の管内市町村の園芸産出額は107.6億円(野菜93.3億円、いも類0.4億円、花き5.7億円、果樹5.8億円、特用林産2.4億円)となっています(県全体373億円の28.8%)。しかし、生産者の高齢化や後継者不足により、作付面積や生産額は多くの園芸品目で横這いから減少傾向を示しています。

(野菜)

—仙台地域—

消費地「仙台」をエリアとする地域では、主要品目である特産の曲がりねぎやえだまめの他、レタス、ゆきな、ちぢみほうれんそう等の軟弱野菜を中心とした都市近郊型野菜経営が展開されています。黒川地域では、野菜指定産地となっているほうれんそうをはじめ、水田転作による曲がりねぎが産地化され、仙台市場や札幌市場を中心に出荷されており、近年では、アスパラガス、加工用かぼちゃなどが新たな推進品目として取り組まれています。また、施設栽培では、1haを超える大規模トマト栽培施設が7カ所あり、年間約1,200t以上が出荷されています。

販売先については、市場出荷のほか、近年販売チャネルの多様化や食に対する生活者の関心の高さを反映し、JAが運営する直売所や大型量販店での地場野菜コーナーへの出荷が増加しています。

仙台市東部地区の園芸地帯は農地の復旧が進み、大型施設を導入した大規模園芸法人や土地利用型野菜を導入する組織が現れるなど、生産構造が変化してきており、大規模経営体の生産技術支援や経営能力向上が課題です。

—亘理地域—

亘理地域における野菜の主要品目は、いちご、せり、きゅうり、しゅんぎく、ほうれんそう、トマト等です。きゅうりは温暖な気候を生かした促成産地として知られています。

管内の代表的な品目であるいちごは、令和元年産の販売額が、前年比1.8億円増の30.1億円と震災前の90%まで回復しました。今後は、環境制御技術の導入・定着による単収増加により、主力品種の「とちおとめ」、「もういっこ」に加え、新品種「にこにこベリー」の栽培拡大など、更なる産地強化をしていくことが課題です。

また、被災農地の復旧と併せ、土地利用型野菜の大規模な導入を検討する組織が現れるなど、生産構造が変化してきており、大規模経営体の生産技術支援や経営能力向上が課題です。

なお、名取市及び仙台市で生産されているせりについては、GI登録の申請を行っています。

(花き)

—仙台地域—

平成30年産作付面積は約13haであり、きく類や宿根かすみそう、トルコギキョウ等の切花類、洋らん、シクラメン等の鉢もの類及び花壇用苗もの類が栽培されています。

切り花類は、仙台市、大衡村を中心に生産されていますが、市場単価の低迷や燃油価格高騰による生産コストの増大など経営環境は厳しく、打開策として低温開花性品目の導入検討が進められています。また、加温が必要な周年出荷を行う生産者は減少し、無加温の作型への移行が進んでいます。

鉢もの類・花壇用苗もの類は、仙台市、多賀城市、大衡村に点在し、花きの消費低迷等により経営環境は厳しい状況ではありますが、世代交代等により若い経営者が多くなっています。

—亘理地域—

平成30年産作付面積は約16haであり、花きの主要品目は、名取市、岩沼市、亘理町のカーネーション、亘理町のきく、名取市のばら等です。

いずれの品目も、ほぼすべて施設内での栽培であり、冬季を含めた周年栽培体系が確立され、集約型の花き生産を実現しています。

市場単価の低迷や燃油価格高騰による生産コストの増大など経営環境は厳しく、打開策として低温開花性品目の導入検討が進められています。

(果樹)

—仙台地域—

果樹の主要品目は、りんごと日本なしが中心で、販売は直売や贈答用がほとんどです。また、富谷市では特産果樹としてブルーベリーが産地化されています。近年では、生食用ぶどうの栽培や醸造用ぶどうの栽培が広がっています。

りんご、日本なし、ブルーベリーについては生産者の高齢化や労働力不足の傾向にあり、作業の省力・軽労化と後継者確保が課題となっています。ぶどうについては、生産技術の向上による安定生産が課題となっています。

—亘理地域—

果樹の主要品目は、亘理町と山元町のりんごですが、この他におとうやアセロラの栽培も行われています。また、最近では、山元町を中心としたいちじくの産地化や、管内各所における「シャインマスカット」等のぶどう生産拡大の動きがあります。

りんご栽培では、栽培面積の80%程度を共同防除組織による防除で省力化を図っており、今後、改植による生産の安定を図るとともに、後継者の育成や女性農業者の技術習得など、担い手を確保することが課題となっています。

(特用林産物)

しいたけは、栽培方法によって原木栽培しいたけと菌床栽培しいたけに分けられます。

原木栽培しいたけについては、東京電力(株)福島第一原発事故による放射性物質の影響により、管内5市町村で出荷制限指示や出荷自粛要請がなされ、生産量が激減しましたが、県の管理基準に基づいた栽培方法の普及により、令和元年度末までに15名の生産者、55ロットについて出荷制限等が解除され、生産回復に向けた取組が進んでいます。生産に当たっては、安全な県外産原木が購入されていますが、全国的な原木不足等により価格が高騰しており、県内産原木の利用再開が急がれます。

菌床栽培しいたけについては、大和町や仙台市が主要な産地となっており、震災直後は放射能の風評被害により生産量の減少が見られたものの、生産施設の拡充など生産体制が強化されたことにより、震災前の水準を上回り、200tを超える生産量となっています。

[重点振興品目の生産の現状]

区分	品目名	作付面積 (ha)	出荷量 (t, 千本(鉢))	産出額 (千円)	区分	品目名	作付面積 (ha)	出荷量 (t, 千本(鉢))	産出額 (千円)
野菜	いちご	65.1	2,869.6	357.6	花き	輪ぎく	7.5	2,172.0	16.7
	きゅうり	14.5	1,483.6	35.7		鉢もの類	3.7	318.0	15.9
	トマト	14.8	1,232.0	40.6		花壇用苗もの類	2.2	2,551.0	9.7
	ほうれんそう	20.6	179.9	7.4		ばら	1.5	1,031.0	7.7
	ねぎ	101.7	1,519.6	33.3		小ぎく	2.0	311.0	1.1
	たまねぎ	45.4	1,016.0	6.4		カーネーション	4.3	3,422.0	15.7
	キャベツ	1.4	39.8	0.2		トルコギキョウ	2.6	439.0	4.7
	えだまめ	16.1	35.0	3.6		ストック	1.1	269.0	1.6
	レタス	22.5	336.8	5.4		宿根かすみそう	0.3	56.9	0.9
	せり	10.8	295.3	50.2		果樹	りんご	106.7	1,638.7
	しゅんぎく	8.6	264.0	17.5	日本なし		22.3	476.8	10.7
	こまつな	18.7	537.8	27.6	ぶどう		9.5	58.0	4.5
	ゆきな	14.2	188.5	5.4	ブルーベリー		6.1	5.9	0.9
	チンゲンサイ	9.3	402.6	9.7	いちじく		19.1	20.3	1.8
	みょうがたけ	0.2	8.4	1.2	特用林産	しいたけ	—	257.8	24.1
	つるむらさき	0.3	12.2	0.5	※ 野菜:「H30農協販売実績」、花き:「H30花き産業振興総合調査」、果樹:「H30特産果樹生産動態等調査」、特用林産:「H30特用林産物需給動態調査」				
	にんじん	2.5	29.4	0.2					
	さつまいも	15.5	211.0	2.8					
	だいこん	9.4	196.4	1.4					

2 園芸特産振興の方向性

- ・先進的園芸経営体の育成による生産拡大に向けた支援
- ・大規模露地園芸経営体の機械化体系等の導入による効率的生産の推進
- ・多様なニーズに対応した販売戦略の展開

3 重点振興品目 33品目(内訳 野菜19、花き8、果樹5、特用林産1)

(1) 県戦略品目 16品目(内訳 野菜10、花き2、果樹3、特用林産1)

区分	品目名	振興方向
		具体的振興方策
野菜	いちご	生産力とブランド力の強化によるいちご産地の振興 <ul style="list-style-type: none"> ・反収向上による生産量拡大 ・環境負荷低減の取組拡大 ・促成栽培技術の安定化 ・新品種の栽培技術向上 ・安全・安心に関する取組の推進 ・ニーズに対応した出荷対応 ・消費啓発活動の展開
	きゅうり	新たな生産技術の導入による産地強化 <ul style="list-style-type: none"> ・基本技術の励行と新たな管理技術の導入 ・環境に優しい新たな生産技術の導入と定着 ・産地後継者の確保及び育成 ・安全・安心に関する取組の推進 ・有利販売方策
	トマト	環境制御技術の向上と病害虫防除の徹底による安定生産 <ul style="list-style-type: none"> ・安定生産の推進 ・難防除病害虫対策 ・経営規模拡大 ・大規模施設の環境制御技術の向上とトマト経営体の交流活動の活性化 ・地域に根ざした多様な需要に対応した販売力の強化
	ほうれんそう	露地栽培の生産安定化及び新規栽培者の確保による持続的産地の振興 <ul style="list-style-type: none"> ・周年供給体制の整備 ・持続性の高いほうれんそう産地の維持 ・生産面積の維持・拡大 ・出荷規格の徹底 ・生産履歴等産地情報の発信 ・販路の拡大 ・生産組織の活性化
	ねぎ	消費のニーズを栽培スタイルに反映させた儲けるねぎ栽培の振興 <ul style="list-style-type: none"> ・栽培面積の維持・拡大 ・労働力の削減推進 ・用途等に適した品種の導入 ・産地の持続的発展 ・栽培技術の統一・平準化 ・実需者ニーズに応じた出荷対応 ・知名度向上対策 ・生産履歴等産地情報の発信 ・生産組織の活性化

野菜	たまねぎ	<p>機械化体系導入等による生産拡大と作業効率の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栽培研修会等の開催 ・面積拡大対策 ・労働力の削減(コスト削減策) ・直売所の販売の強化 ・市場出荷 ・加工・業務用 ・組織活動の推進
	キャベツ	<p>加工・業務用需要に対応できる産地の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産規模に応じた機械化体系の導入 ・加工・業務用需要への対応推進 ・病虫害防除の徹底 ・安全・安心に関する取組の推進 ・業務用契約栽培の推進 ・戦略的出荷体制の確立
	えだまめ	<p>地域特産作物としての生産振興と販売チャネルの多角化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域特産作物として作付推進 ・栽培技術の向上 ・販売チャネルの多角化 ・安心・安全な生産体制構築
	レタス	<p>仙台市場等に向けた安定供給と小売業者等との契約栽培の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栽培面積の拡大 ・安定生産の推進 ・環境に配慮した生産技術普及 ・消費者ニーズに応じた品種、作型の導入 ・安全・安心な生産体制構築 ・小売業者との契約栽培の推進、販路の拡大 ・産地情報の発信
	せり	<p>安定供給体制の確立による産地育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産の安定化 ・産地体制強化 ・組織力強化 ・消費宣伝活動 ・安全・安心に関する取組推進
花き	輪ぎく	<p>周年安定生産体制の維持</p> <ul style="list-style-type: none"> ・燃油・資材等高騰対策 ・産地後継者の確保及び育成 ・栽培技術の統一化 ・規格の統一化 ・市場ニーズに応じた出荷対応 ・直売所の販売拡大 ・消費啓発活動の積極的展開
	鉢もの類	<p>省力・低コスト化の推進と需要に対応した販売力の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・燃油・資材高騰対策 ・販売力強化 ・情報発信 ・担い手の育成
	花壇用苗もの類	<p>需要に応じた生産販売の推進と担い手育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・燃油・資材高騰対策 ・販売力強化 ・情報発信 ・担い手の育成

果樹	りんご	消費者に評価されるりんごづくりの推進 <ul style="list-style-type: none"> 新規栽培者、新規部門導入者の掘り起こし 共同防除組織の運営強化 作業効率の向上 環境に優しいりんご産地の育成 多彩な販売戦略の確立
	日本なし	生産技術の平準化と後継者育成による産地の維持・振興 <ul style="list-style-type: none"> 後継者確保・育成 品質の高い果実生産 消費者ニーズに合った品種の更新 近隣に配慮した農薬散布の実施 消費者ニーズの把握
	ぶどう	栽培技術の向上による生産安定と産地育成 <ul style="list-style-type: none"> 栽培技術の向上による生産の安定化 消費者ニーズに対応した品種の普及拡大 生産組織活動の活性化と新規栽培者の掘り起こし
特用林産	しいたけ	安定生産体制の構築と販路確保による産地の拡大 <ul style="list-style-type: none"> 生産機械・施設の強化 生産資材の確保 栽培技術の向上 生産者情報の体系化 出荷管理体制の徹底 販路の拡充 ブランド化の推進 消費者への安全性PR 後継者・担い手の確保、育成

(2) 地域戦略品目 17品目(内訳 野菜9、花き6、果樹2)

区分	品目名	振興方向
		具体的振興方策
野菜	しゅんぎく	生産の安定化と産地力強化 <ul style="list-style-type: none"> 生産の安定化と産地力強化 消費宣伝活動 安全・安心に関する取組
	こまつな ゆきな チンゲンサイ	安定した生産体制整備による産地力強化 <ul style="list-style-type: none"> 生産の拡大 安定生産に向けた生産技術の向上 安定的な出荷体制の確立 消費拡大 安全・安心に関する取組推進
	みょうがたけ	消費者理解の推進による産地の継続 <ul style="list-style-type: none"> 収量・品質の向上と作期拡大 流通販売方策 消費拡大策 安全・安心に関する取組
	つるむらさき	水稻育苗ハウスの有効利用を核としたつるむらさきの産地育成 <ul style="list-style-type: none"> 栽培面積の拡大と生産組織の整備 持続的生産のための環境改善

野菜	にんじん	<p>地産地消と加工業務需要への対応加速による産地化推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産規模の拡大 ・土づくりの推進 ・高品質・安定生産の普及
	さつまいも	<p>生産と加工販売ができる産地の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作付ほ場の土づくり ・生産計画目標の達成 ・経営安定化に向けた収益性確保
	だいこん	<p>加工業務需要への対応推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産規模の拡大 ・土づくりの推進 ・高品質・安定生産の普及
花き	ばら	<p>低コスト・省力栽培による安定生産の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・燃油・資材等高騰対策による生産・経営の安定化 ・夏期の切り花品質向上 ・販売力の強化
	小ぎく	<p>需要に対応できる産地の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活力ある担い手の育成・確保 ・生産力と品質を高める農業技術の高度化 ・産地PR活動による販売力の強化 ・需要に応じた出荷体制の整備
	カーネーション	<p>技術実証・導入による生産性向上及び実需との連携によるブランド化の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・燃油高騰対策による生産の安定化 ・経営規模の拡大と新規栽培者の確保 ・環境に優しい生産技術の確立 ・栽培技術の向上と安定生産の推進 ・実需との連携による販売力の強化
	トルコギキョウ	<p>高品質な切り花生産に向けた栽培及び出荷技術の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活力ある担い手の育成・確保 ・生産力と品質を高める農業技術の高度化 ・出荷規格の統一 ・産地PR活動による販売力の強化
	ストック	<p>低温管理が可能な品目特性を活かした作付面積の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栽培技術の平準化 ・新規栽培者の確保 ・花き栽培のコスト低減への意識啓発 ・需要に応じた出荷体制の整備
	宿根かすみそう	<p>新規栽培者掘り起こしによる産地の維持</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担い手の育成・確保 ・生産力と品質を高める栽培技術の高度化 ・安定生産に向けた施設整備の推進 ・産地PR活動による販売力の強化
果樹	いちじく	<p>生産から販売までの技術向上による生産安定と産地育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栽培技術の向上 ・安定供給体制の確立 ・販売体制の見直し
	ブルーベリー	<p>多品種導入と高品質果実の生産量増加による産地の育成・拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産及び消費拡大

大崎圏域の園芸特産振興方向

1 園芸特産の現状と課題

当管内は、自然環境との共生による水田農業が行われてきた「大崎耕土」を有する穀倉地帯で、水稲・大豆を中心に、肉用牛や酪農などの畜産が盛んに行われてきました。このため、農業産出額(H30)は米238.2億円、畜産238.0億円、園芸59.4億円と米と畜産に特化した生産構造となっています。このような中、大崎圏域園芸特産振興戦略プラン(H28～R2)に基づき、園芸特産の振興を進めてきたところ、ねぎ類(長ねぎ・青ねぎ)、加工用ばれいしょ等の加工・業務用野菜、しいたけなどの品目で生産が拡大したほか、補助事業を活用した施設・機械整備や新規生産者の確保等により生産体制の強化が図られました。

しかしながら、生産者の高齢化や後継者・担い手不足、燃油や生産資材の高騰等の問題は顕在化しており、JA各部会等の生産組織体制の強化に加え、機械化一貫体系の導入や高度な環境制御技術の導入による生産性の向上のほか、食の多様化や新たな生活様式への変化に対応するため、食産業との連携による加工・業務向け野菜への積極的な取組、商品開発や販路開拓など、儲かる園芸特産の実現が必要です。

また、これらの取組に加え、地産地消や食育の推進を図るため、学校給食など地域への食材供給や、農林産物直売施設向け少量多品目栽培等多様な生産形態を維持し、観光との連携等により、農村地域全体の活性化に資することも必要です。

(野菜)

主要な品目としては、国の指定産地となっている夏秋なす、秋冬ねぎ、秋冬はくさい、ほうれんそうのほか、国産需要の高まりにより生産量が伸びているねぎ類、園芸施設でのこねぎ、みずな等があり、JA各部会を中心に生産振興が図られています。また、農業法人等による大規模化の事例が見られてきたほか、農業法人間連携又は農業法人と個別農業者が連携した生産・販売体制が構築される事例が見られるようになりました。

生産性の更なる向上を図るため、露地では機械化一貫体系の導入、排水対策の励行、施設では高度な環境制御技術の導入を進めるほか、実需者ニーズに対応した加工・業務向け野菜の推進が必要となります。

(花き)

主要な品目としては、ばら、輪ぎく及びスプレーぎくのほか、鉢もの類、花壇用苗もの類、トルコギキョウ、ストック等があり、JA各部会や農業法人等で生産に取り組みまれています。販売面では、JA系統出荷、個別市場出荷、農産物直売所など多様化している一方で、単価の低迷や燃油価格の高騰等により、生産量は伸び悩んでいます。また、新たな生活様式の実践等により、需要減少による価格低下が長期的に懸念されます。

このため、ニーズに合った品目・品種の選定や徹底したコスト削減、予約販売率を高めるなど、収益性の高い花き生産を実現する必要があります。

(果樹)

主要な品目としては、美里町小牛田のなしがあり、組織化が図られています。販売面では、各戸直売で対応しており、梨フェアの開催など、組織的な販売活動も行われています。また、育苗ハウスを活用したぶどうや水田転作によるブルーベリーなど特徴的な取組も見られます。

高齢化による担い手不足や老木化により、生産量は減少していることから、新規生産者の確保、省力技術の導入、ニーズに合った品種の選定や販路開拓などが課題となっています。

(特用林産物)

主要な品目としては、えのきたけ、しいたけ等があり、特に、えのきたけは、県内トップの生産量(県生産量の約7割)を誇り、東北の主要生産地となっています。菌床しいたけは、比較的簡易な施設で栽培が始められることから、生産者が徐々に増加しているほか、JGAP認証の取得など、経営改善の取組が見られるようになりました。

生産面では、引き続き安定した収量の確保・品質向上を図っていくほか、販売面では、新たな販路の確保が課題となっています。

〔重点振興品目の生産の現状〕

区分	品目名	作付面積 (ha)	出荷量 (t, 千本(鉢))	産出額 (千万円)	区分	品目名	作付面積 (ha)	出荷量 (t, 千本(鉢))	産出額 (千万円)	
野菜	いちご	4.0	31.5	3.5	野菜	ばれいしょ	22.5	491.0	2.0	
	きゅうり	12.8	497.4	14.0		はくさい	9.9	497.2	2.2	
	トマト	23.7	972.9	33.2		なす	24.9	344.6	12.6	
	ほうれんそう	28.9	291.7	19.1		みずな	24.6	523.9	21.5	
	ねぎ	100.9	1,533.6	40.0		しゅんぎく	9.9	153.0	9.5	
	こねぎ	20.9	545.9	44.7		にら	4.0	60.5	3.2	
	たまねぎ	12.0	187.3	1.8		ブロッコリー	13.7	21.4	0.6	
	キャベツ	17.6	671.6	4.2		輪ぎく	4.7	608.0	4.9	
	えだまめ	7.0	24.6	1.2		スプレーぎく	4.3	970.0	6.0	
	だいこん	36.0	393.4	8.5		花き	ばら	2.0	876.0	4.1
	かぼちゃ				花壇用苗もの類		3.9	1995.0	18.0	
	にんじん				果樹		日本なし	11.6	127.4	4.4
	ごぼう						ぶどう	5.6	16.0	1.3
	レタス						ブルーベリー	7.0	10.6	1.1
	しそ・大葉	2.6	30.7	1.5	特用林産	しいたけ	-	153.7	14.6	
	こまつな					えのきたけ	-	1172.0	34.2	
	ゆきな					わさび	-	2.8	1.6	
せり										

※ 野菜:「H30農協販売実績」等、花き:「H30花き産業振興総合調査」、果樹:「H30特産果樹生産動態等調査」、特用林産:「H30特用林産物需給動態調査」

2 園芸特産振興の方向性

(園芸)

- ・土地利用型農業法人や生産組織への機械化一貫体系導入等による露地園芸の取組拡大
- ・施設園芸における高度な環境制御技術の導入による生産性の一層の向上
- ・食品関連産業との連携強化による加工・業務向け野菜の更なる生産拡大
- ・企業や個人の新規参入促進及び多様な人材確保に向けた体制整備
- ・JA各部会等の新規生産者の確保・技術継承等による組織体制の強化
- ・各種補助事業を活用した施設・機械整備等による生産体制の強化
- ・関係機関との連携による生産現場に即した品目の選定及び品種・栽培技術の導入・普及による安定生産
- ・直売等多彩な生産・販売形態の支援

(特用林産物)

- ・補助事業を活用した生産施設整備や機械化による生産性の向上
- ・GAPの推進による経営改善と多様な販売ルートの構築
- ・各種補助事業を活用した施設・機械整備等による生産体制の強化
- ・直売等多彩な生産・販売形態の支援

3 重点振興品目 34品目(内訳 野菜24、花き4、果樹3、特用林産3)

(1) 県戦略品目 17品目(内訳 野菜11、花き3、果樹2、特用林産1)

区分	品目名	振興方向
		具体的振興方策
野菜	いちご	栽培技術の高位平準化と品質の向上 栽培技術の高位平準化・育苗管理の徹底による良質苗の安定生産・需要に応じた生産体制の強化
	きゅうり	高品質栽培技術の習得による生産性の向上 生産技術の向上による高品質化・経営規模の拡大と新規栽培者の確保・多様な販売形態に対応した物流等の改善・積極的な消費啓発活動の展開
	トマト	実需者・消費者ニーズに対応した周年安定供給体制の整備 栽培管理技術の向上による高品質の維持・経営規模拡大に向けた新しい担い手の確保・販売力強化による生産量の拡大と契約取引等の対応による価格安定対策・積極的な消費啓発活動の展開
	ほうれんそう	安定生産と産地の維持確保 継続性の高い産地づくり支援・周年供給体制の確立と新規栽培者の確保・需要に応じた流通販売体制の整備・積極的な消費啓発活動の展開
	ねぎ類	省力・機械化による規模拡大と新需要への対応強化・産地としての安定生産確保 経営規模の拡大と新規栽培者の確保・安定生産に向けた体制強化・生産安定技術の向上・加工・業務用への対応強化・流通体制の強化・積極的な消費啓発活動の展開
	たまねぎ	省力・機械化による規模拡大と新需要への対応強化 経営規模の拡大と新規栽培者の確保・機械化体系の推進による作業効率化・生産技術の向上による収量増加と高品質化・安定生産出荷体制の整備
	キャベツ	加工・業務用の需要に対応した生産供給体制の確立 経営規模の拡大と新規栽培者の確保・機械化体系技術の確立による作業効率化・生産技術の向上による高品質化・安定生産出荷体制の整備・物流等の改善と有利販売可能な販路の開拓
	えだまめ	栽培技術の向上と作期の分散による生産供給体制整備 水田の有効利用による生産の拡大・機械化体系技術の確立・高品質安定生産技術の確立・安定生産出荷体制の整備
	ばれいしょ (加工・業務用)	加工会社と連携した生産体制の維持 排水対策の実施と基本技術の励行・カルビーポテト(株)と連携した巡回指導の継続と適正品種の選定・契約栽培に基づく安定的な流通販売体制の継続
花き	輪ぎく	多様なニーズに対応できる安定生産体制の確立 経営規模の拡大と新規栽培者確保による栽培面積の拡大・持続性の高い産地づくり支援・気象条件に対応した栽培管理技術の確立・安定生産出荷体制の整備
	スプレーぎく	多様なニーズに対応できる安定生産体制の確立 経営規模の拡大と新規栽培者確保による栽培面積の拡大・省力・低コスト技術の導入・定着・持続性の高い産地づくり支援・安定生産出荷体制の整備

花き	花壇用苗もの類	省力・低コスト化による良質生産と経営の安定 用土の適正管理による安定生産・効率的な生産体制の強化・燃油価格高騰対策への取り組み支援・市場動向を的確に把握した予約販売の推進
果樹	日本なし	省力化・低コスト化による生産性向上 省力低コスト等新技術の普及拡大・消費者ニーズに対応した品種等の普及拡大・「北浦梨」ブランドの強化と新規販路の開拓
	ぶどう	販売に向けた生産のための栽培技術向上 消費者に求められる果実生産に向けた技術向上・新規栽培への誘導・地産地消の推進による消費拡大対策
特用林産	しいたけ	菌床しいたけ:安定生産による収益確保 原木しいたけ:安全なきのこを栽培するための栽培管理の徹底 原木きのこ栽培における放射性物質対策作業マニュアルに基づく栽培管理の指導・徹底・GAP導入による生産管理意識の向上・安定生産推進

(2) 地域戦略品目 17品目(内訳 野菜13、花き1、果樹1、特用林産2)

区分	品目名	振興方向
		具体的振興方策
野菜	加工・業務用を主とする野菜 (レタス [*] 、だいこん、かぼちゃ、にんじん、こぼろ、しそ)	加工・業務用需要に対応した生産供給体制の確立 経営規模の拡大と新規栽培者の確保・生産技術の向上による収量向上と高品質化・需要に応じた流通販売体制の整備
	軟弱野菜類 (せり [*] 、こまつな、ゆきな)	新たな需要に対応した生産供給体制の確立 経営規模の拡大と新規栽培者の確保・生産技術の向上による収量向上と高品質化・需要に応じた流通販売体制の整備
	はくさい	加工・業務用の需要に対応した生産供給体制の確立 経営規模の拡大と新規栽培者の確保・機械化体系技術の確立による作業効率化・生産技術の向上による収量向上と高品質化・安定生産出荷体制の整備
	なす	多様なニーズに対応できる安定生産供給体制の確立による産地強化 経営規模拡大と新規栽培者の確保による栽培面積の拡大・生産技術の向上による収量向上と高品質化・需要に応じた流通販売体制の整備・積極的な消費啓発活動の展開
	みずな	安定生産及び品質の確保 生産安定技術の確立・経営規模の拡大と新規栽培者の確保・需要に応じた流通販売体制の整備・積極的な消費啓発活動の展開
	しゅんぎく	安定生産供給体制の維持確保 生産安定技術の確立・経営規模の拡大と新規栽培者の確保・需要に応じた流通販売体制の整備
	にら	機械化による栽培面積拡大と安定供給体制の確立 経営規模の拡大と新規栽培者の確保・需要に応じた流通販売体制の整備・積極的な消費啓発活動の展開
	ブロッコリー	栽培技術の向上と安定出荷体制の確立 栽培技術の向上に向けた技術支援・輪作体系での栽培の導入・推進・積極的な消費啓発活動の展開

花き	ばら	養液栽培の生産性向上による収益力強化
		効率的かつ安定的な産地づくり・多様な販売チャネルへの対応
果樹	ブルーベリー	土壌条件等の改善を主とした生産性向上 新規販売者の確保・栽培技術の向上と高品質果実生産・地産地消の推進による消費拡大対策
特用林産	えのきたけ	省力・低コスト化による収益力の強化と経営の安定 生産性の向上と低コスト化・産地のブランド化・地産地消推進による消費拡大対策の展開
	わさび	良質な商品の供給とブランド化の推進 生産技術の確立と生産拡大・多様な販売形態による実需者・消費者ニーズへの対応、食の安全安心の確保

※(2)地域戦略品目に記載されているレタス、せりは県戦略品目

栗原圏域の園芸特産振興方向

1 園芸特産の現状と課題

(共通)

管内の平成30年の農業産出額は、前年から2億円増加し、231億円となりましたが、品目別の構成割合では米と畜産で全体の91%を占め、園芸は8%と依然として低い状況です。また、農業従事者の減少と高齢化が一層深刻化しており、担い手の確保が課題となっています。

(野菜)

平成30年産の野菜重点振興品目(18品目)の作付面積は78.3ha、販売額は137.8千万円であり、販売額は近年横ばいとなっています。農業法人によるパプリカ(63.7千万円)、トマト(18.6千万円)、水耕野菜(16.0千万円)の大規模養液栽培と、きゅうり(15.4千万円)、いちご(9.0千万円)が販売額を牽引しています。

パイプハウスでは、ほうれんそう、なばな類、ズッキーニ等が栽培されており、特にズッキーニについては、平成26年に生産拡大プロジェクトを立ち上げ、関係機関が一体となって産地化を進めています。露地では、主にかぼちゃ、そらまめ、ねぎ等が栽培されており、近年、農地整備事業の実施地区において、かぼちゃやそらまめを高収益作物として導入する動きがあります。また、伊豆沼周辺では、地域特産物のれんこんが栽培されています。

生産者の高齢化と担い手不足で生産拡大が難しい状況であり、土地利用型露地野菜は、ほ場の排水対策と機械化体系の導入、新規栽培者の掘り起こし、施設野菜については、環境制御技術の導入や空きハウス等を活用した面積拡大を重点的に進めていく必要があります。

(花き)

平成30年産の花き重点振興品目(3品目)の作付面積は6.3ha、販売額は12.0千万円と近年横ばい傾向にあります。

輪ぎくは、一迫地区で8~9月咲き盆・彼岸出荷が行われており、直挿し栽培や複合環境制御等の省力・省エネ技術が普及しています。また、冬春期の生産を縮小し、暖房コストの掛からない品目を導入する動きが見られます。スプレーぎくは主に一迫地区で栽培されており、近隣市町の生産者を交えた任意組織「くりはらスプレーマム研究会」が、苗や資材の共同購入や栽培技術の向上等に取り組んでいます。花壇用苗ものは、若柳地区でパンジー等を東北や関東の市場に系統出荷しています。

夏の猛暑や施設土壌の塩類集積、難防除病害虫の発生による切り花品質低下が課題となっています。

(果樹)

平成30年産の果樹重点振興品目(3品目)の作付面積は21.4ha、販売額は5.2千万円で減少傾向にあります。

りんごは金成及び高清水地区を中心に栽培されており、贈答用を主体とした個別販売が行われています。また、複数の地区で共同防除が行われている他、栗原市果樹連絡協議会が栽培技術の向上や産地育成に取り組んでいます。ブルーベリーは主に若柳、築館、一迫地区で栽培されており、ジャム加工や摘み取り園等の取組が行われています。ぶどうは金成、若柳地区で生食用ぶどうの施設栽培が行われており、平成30年度にはシャインマスカット栽培研究会が設立しました。また、栗駒の法人が平成30年より醸造用ぶどうの栽培に取り組んでいます。

生産者の高齢化が進んでおり、新規栽培者の掘り起こしが課題となっています。また、りんごやブルーベリーでは、排水不良や土壌病害により収量が低下した園地が散見されています。

(特用林産物)

平成30年産特用林産物の重点振興品目(2品目)の栽培面積は3.4ha、販売額は5年前(平成25年)の62.7千万円から46.2千万円に減少しています。しいたけは、震災直後に大きく減少しましたが、施設の復旧と市場の回復により徐々に増加しています。県内外の大型施設との競合や、市場価格が低迷しているため、販路の開拓や低コスト化、競争力の強化が必要です。なめこの生産量は、震災前の水準に回復しつつあり、県全体の約4割を占めます。近県産地との競合により、価格が低迷しており、特に、夏の不需要期における業務需要への対応、価格維持と販売促進が必要です。また、栽培技術上の問題により、規格や生産量が安定しないことから、生産者の技術・知識を高めるための取組が必要です。

〔重点振興品目の生産の現状〕

区分	品目名	作付面積 (ha)	収穫量 (t, 千本(鉢))	販売額 (千万円)	区分	品目名	作付面積 (ha)	収穫量 (t, 千本(鉢))	販売額 (千万円)
野菜	いちご	3.6	56	9.0	花き	輪ぎく	1.9	381	2.8
	きゅうり	8.1	549	15.4		スプレーぎく	0.4	177	1.1
	トマト	4.4	545	18.6		花壇用苗もの類	4.0	1,399	8.1
	ほうれんそう	7.1	36	1.6	果樹	りんご	14.8	232	3.7
	パプリカ	7.6	1,152	63.7		ぶどう	1.4	1	0.1
	ねぎ類	3.3	63	2.0		小果樹類 ^{注2)}	5.2	8	1.4
	キャベツ	2.3	85	0.5	特用 林産	しいたけ	2.9	339	29.8
	えだまめ	7.0	6	0.7		なめこ	0.5	376	16.4
	ばれいしょ ^{注1)}	2.2	46	0.2	※ 野菜:「H30農協販売実績」及び「H30直売所販売実績調査」、花き:「H30花き産業振興総合調査」、果樹:「H30特産果樹生産動態等調査」、特用林産:「H30特用林産物需給動態調査」 注1) ばれいしょ及びびれんこんはR1の実績。 注2) 小果樹類はブルーベリーの実績。				
	そらまめ	4.5	38	1.8					
	なばな類	1.4	19	0.7					
	かぼちゃ	16.0	89	1.9					
	だいこん	2.1	25	0.2					
	水耕野菜	1.2	168	16.0					
	スナップエンドウ	1.1	9	0.8					
	ズッキーニ	7.9	110	3.8					
	ピーマン類	0.7	17	1.1					
れんこん ^{注1)}	7.1	11	0.7						

2 園芸特産振興の方向性

(1) 先進技術の導入による施設園芸の競争力強化

- ・環境制御技術等の活用による生産性と品質の向上
- ・空きハウスの活用による生産拡大
- ・高品質・安定出荷によるブランド力の向上

(2) 水田等における露地園芸の振興

- ・暗渠排水等の整備によるほ場条件の改善
- ・水田フル活用による収益性の高い園芸作物への転換
- ・農地整備事業と連携した高収益作物の導入
- ・機械化体系の導入による作業の省力化と作付拡大

(3) 次代を担う先進的園芸経営体の育成

- ・部会活動の強化による新規栽培者の確保・育成
- ・土地利用型露地園芸に取り組む組織経営体の育成
- ・地域農業をけん引するリーダーの育成

(4) 消費者・実需者ニーズを捉えた販売戦略の展開

- ・消費者への情報発信による認知度向上と需要喚起
- ・地域の特色ある園芸作物の生産拡大
- ・GAP手法の普及啓発
- ・直売所やインショップへの出荷拡大

3 重点振興品目 26品目(内訳 野菜18、花き3、果樹3、特用林産2)

(1) 県戦略品目 15品目(内訳 野菜9、花き3、果樹2、特用林産1)

区分	品目名	振興方向
		具体的振興方策
野菜	いちご	環境制御技術導入による収量増加と多様な消費ニーズへの対応 <ul style="list-style-type: none"> 環境制御技術導入による収量増加 省エネ技術導入による低コスト化 品種の検討や新技術による夏いちごの生産安定化 観光農園・直売等の新たな展開 部会活動の活性化による産地の強化
	きゅうり	環境制御技術導入による収量増加と施設土壌の改善等による生産性の向上 <ul style="list-style-type: none"> 施設土壌の改善等による生産性の向上 環境制御技術導入による収量の増大 冬期のハウス利用促進 部会活動の活性化による産地の強化と栽培技術の高位平準化
	トマト	環境制御技術の習熟・向上による安定生産 <ul style="list-style-type: none"> 新技術等を活用した安定生産の実現 環境に優しい栽培技術の実践 ニーズに応じた出荷対応 消費拡大・産地PRの推進
	ほうれんそう	雨よけ及び寒じめ栽培等輪作体系の定着による周年供給体制確立 <ul style="list-style-type: none"> 安定生産技術の普及 輪作体系の定着 寒じめほうれんそう栽培技術の普及 栗原産野菜の消費拡大
	パプリカ	環境制御技術や天敵の活用等による高品質・安定生産 <ul style="list-style-type: none"> 環境制御技術の活用による安定生産 施設の改修による生産性向上 人と環境に優しい生産技術の導入
	ねぎ類	長期出荷作型の定着と農地整備地区(高収益作物)での取組誘導 <ul style="list-style-type: none"> 地域・作型にあった品種の導入 省力栽培技術の導入 冬期出荷作型の導入・拡大 農地整備高収益作物としての導入
	キャベツ	消費者・実需者ニーズに合わせた計画的な生産出荷 <ul style="list-style-type: none"> 基本技術の徹底による安定生産 販路拡大による収益確保
	えだまめ	栽培技術の向上による生産性の向上と販路拡大 <ul style="list-style-type: none"> 品質の高いえだまめの安定生産 地元消費の拡大と産地強化
	ばれいしょ	農地整備事業と連携した作付拡大と生産性の向上 <ul style="list-style-type: none"> ほ場条件の改善による生産性向上 農地整備事業実施地区での導入誘導

花き	輪ぎく	<p>新品種・安定生産技術の導入による収益性の向上</p> <p>・組織活動強化による新規栽培者の育成 ・新技術導入による収益性の向上 ・環境に配慮した栽培技術の確立 ・実需者ニーズに対応した多様な販売ルートの確立</p>
	スプレーぎく	<p>組織活動の強化による切り花品質の向上と担い手育成</p> <p>・組織活動強化による新規栽培者の育成 ・新技術導入による収益性の向上 ・環境に配慮した栽培技術の確立 ・実需者ニーズに対応した多様な販売チャネルの確立</p>
	花壇用苗もの類	<p>高品質苗の安定生産による収益性の向上</p> <p>・組織活動強化による新規栽培者の育成 ・産地情報発信による販売力の強化 ・実需者ニーズに対応した多様な販売ルートの確立</p>
果樹	りんご	<p>経営継承者確保定着と新品種の導入による販売機会の増加</p> <p>・高齢樹の改植推進、園地の土壌改良推進 ・新品種の導入・定着の支援と県育成品種の生産拡大 ・りんご加工品の製造販売支援</p>
	ぶどう	<p>産地化を目指した施設ぶどう栽培拡大</p> <p>・安定生産技術の推進 ・シャインマスカットの生産振興 ・地産地消によるPRと消費拡大</p>
特用林産	しいたけ	<p>最新技術で高品質・安全なしいたけを提供する産地の確立</p> <p>・施設の整備 ・導入品種の検討 ・人材の育成 ・新しい販売戦略の検討 ・高度技術・菌床の提供 ・農業生産工程管理(GAP等)の実践・推進 ・原木露地しいたけ出荷制限解除</p>

(2) 地域戦略品目 11品目(内訳 野菜9、果樹1、特用林産1)

区分	品目名	振興方向
		具体的振興方策
野菜	そらまめ	<p>農地整備事業と連携した作付拡大と輪作体系の構築</p> <p>・基本栽培技術の徹底による安定生産 ・後作導入による安定した所得確保 ・農地整備事業実施地区での栽培取組の啓発</p>
	なばな類	<p>施設の有効利用による作付拡大</p> <p>・新規栽培者の掘り起こしと空きハウス活用による作付拡大 ・ズッキーニとの輪作体系の普及推進</p>
	かぼちゃ	<p>良食味かぼちゃの生産拡大とブランド化推進</p> <p>・生産技術向上による安定生産 ・抑制かぼちゃの生産拡大 ・良食味かぼちゃのブランド化推進</p>

野菜	だいこん	<p>高原だいこんの品質向上と産地の活性化</p> <p>・病害虫防除技術の普及による安定生産</p> <p>・機械化体系の導入による労力軽減</p> <p>・栽培者の掘り起こしによる生産拡大と産地の活性化</p>
	水耕野菜	<p>実需者ニーズに対応した品目の周年安定供給</p> <p>・環境制御技術の活用による生産性向上</p> <p>・GAPの取組による安全安心な水耕野菜の安定生産</p>
	スナップエンドウ	<p>他品目との輪作による連作障害回避と作付拡大</p> <p>・他品目との輪作による連作障害回避</p> <p>・新規栽培者の掘り起こしと空きハウス活用による作付拡大</p> <p>・直売所やインショップへの出荷拡大</p>
	ズッキーニ	<p>栗原産ズッキーニの生産拡大とブランド力強化</p> <p>・栽培技術の高位平準化</p> <p>・作付面積の拡大</p> <p>・輪作体系の推進</p> <p>・計画安定出荷体制の構築</p> <p>・地産地消の推進／産地PRの推進</p>
	ピーマン類	<p>病害虫防除技術の向上と輪作による安定生産</p> <p>・ウイルス病防除の徹底による安定生産</p> <p>・施設栽培におけるほうれんそうやなばな類との輪作体系の普及</p>
果樹	小果樹類	<p>伊豆沼れんこんの生産拡大</p> <p>・新規栽培者の掘り起こしによる生産拡大</p> <p>・産地PR活動の推進</p>
		<p>土壌改良等による生産性の向上と加工品開発・販売</p> <p>・新植時の土壌改良と排水対策の実施</p> <p>・マルチ資材の施用推進と施肥改善指導</p> <p>・加工品の開発促進と販売支援</p>
特用林産	なめこ	<p>県内のなめこ生産を牽引する産地の育成</p> <p>・施設の整備</p> <p>・品質・品目の多様化</p> <p>・種菌管理・栽培管理の高度化</p> <p>・加工品等商品開発</p> <p>・規格外品等新用途商品開発</p> <p>・農業生産工程管理(GAP等)の実践・推進</p> <p>・産地知名度向上推進</p>

登米圏域の園芸特産振興方向

1 園芸特産の現状と課題

(共通)

登米圏域は、西部が丘陵地帯、東部が山間地帯で、その間に広大で平坦肥沃な登米耕土を形成し、県内有数の穀倉地帯となっています。環境保全米を中心とした水稻、肉用牛などの畜産が盛んで、農業産出額(H30)は333.4億円で、うち米134.9億円、畜産151.0億円、園芸44.0億円と、米と畜産に特化した生産構造となっています。

これまで、登米圏域園芸特産戦略プラン(H28～R2)に基づいた園芸特産振興により、生産部会の統一や設立、きゅうりの環境制御技術の導入、ばれいしょ等の加工・業務用野菜、補助事業を活用した施設・機械整備、登米農業マイスター制度(篤農家による個別指導により早期経営安定を図る取組)を活用した新規生産者の確保等により生産体制の強化が図られました。

しかし、生産者の高齢化や後継者・担い手不足、燃油高騰など課題は多くなっています。

(野菜)

野菜の販売額は16.9億円で、主要品目はきゅうり、いちご、キャベツ、トマト、なす等です。きゅうり(冬春・夏秋)、キャベツ(春・夏秋)の2品目が「登米」として野菜指定産地に指定されています。水田農業の一環としてキャベツ、ねぎ等の土地利用型野菜の取組が推進されているほか、施設園芸については、いちごやトマトで大規模な養液栽培施設での経営が多くなっています。

近年の特徴ある動きとしては、きゅうりでは平成27年国庫事業できゅうりの選果ラインを再整備し、出荷労力軽減と販売力強化を図ったものの、稼働率が低いことが課題となっています。一方、若手を中心に環境制御技術への理解が進みつつあり、環境測定モニターの導入に向けた取組が行われてきました。令和元年度には複合環境制御システムを装備した低コスト耐候性ハウスが導入され、生産を開始しています。今後は、技術の定着・普及による収量向上が産地目標となっています。

また、平成29年にJAみやぎ登米による作付誘導で、ばれいしょの契約栽培が増加しましたが、収穫機の共同調整が進まないため適期作業が行われにくく、作付面積が伸び悩んでいます。

(花き)

花きの販売額は3.2億円で、主要品目はスプレーぎく、ストック、トルコギキョウ、鉢もの類・花壇用苗もの類です。販売面では、JA系統出荷、個別市場出荷、農産物直売所など多様化しており、低コストの輪作体系を確立させると共に、施設の回転率を上げることで単位面積当たりの生産性を向上させることが課題となっています。また、燃油高騰に左右されない品目の検討・選定が求められています。

(果樹)

果樹の販売額は1.5億円で、主要品目はりんごのほか、もも、ぶどうです。

産地の高齢化や後継者不足、さらに台風や低温等の気象災害による減収などにより生産農家の減少が課題となっています。

一方、平成28年から省力化技術としてりんごの樹体ジョイント栽培を県内で初めて導入したほか、令和2年に登米地域果樹産地協議会を設立し、産地の維持・発展に取り組んでいます。

(特用林産物)

特用林産物の販売額は1.3億円で、主要品目は生しいたけ、まいたけ、木炭等となっています。また、津山地区では豊富な水資源を活用したわさび栽培に取り組んでいます。しいたけでは、東京電力(株)福島第一原発事故による放射性物質汚染問題で、原木栽培の出荷制限等が影響し、生産者数が減少しており、安全な原木の確保、出荷解除後の適切な栽培管理等が課題となっています。生産農家の高齢化が進んでおり、今後も特用林産物産地として維持・発展していくためには、生産性の向上と担い手の確保が課題となっています。

〔重点振興品目の生産の現状〕

区分	品目名	作付面積 (ha)	出荷量 (t, 千本(鉢))	産出額 (千万円)	区分	品目名	作付面積 (ha)	出荷量 (t, 千本(鉢))	産出額 (千万円)
野菜	いちご	6.8	133.9	15.2	花き	スプレーぎく	2.7	1,504.0	10.3
	きゅうり	37.9	3,093	85.5		トルコギキョウ	2.4	357.0	4.6
	トマト	2.2	217.4	4.8		ストック	2.9	610.0	4.9
	ほうれんそう	9.3	69.8	3.2		鉢もの類・花壇用苗もの類	1.5	525.0	5.0
	そらまめ	3.9	31.0	1.5	果樹	りんご	27.7	1.5	13.0
	たまねぎ	3.3	79.2	0.5		もも	1.7	17.0	1.1
	キャベツ	55.0	1,884.2	12.0		ぶどう	1.2	12.0	0.7
	ねぎ類	10.9	128.4	3.4	特用林産	しいたけ 原木(生)	27,100本	14.5	1.4
	ばれいしょ	15.6	459.2	1.8		原木(乾)	14,700本	0.7	0.3
	えだまめ	1.4	7.3	0.3		菌床(生)	26,200個	26.6	2.5
	なす	3.4	141.2	3.7	※ 野菜:「H30JAみやぎ登米販売実績」、花き:「H30花き産業振興総合調査」、果樹:「H30特産果樹生産動態等調査等」、特用林産:「H30特用林産物生産統計調査」				
	かぼちゃ	3.5	58.3	1.0					
	にら	4.8	62.6	2.5					
	にんにく	8.7	13.8	1.5					
	ゆきな	6.0	26.2	1.0					

2 園芸特産振興の方向性

(園芸)

- ・JA各部会等の生産組織との連携強化と活動目標の明確化及び実践
- ・各種補助事業を活用した施設・機械整備等による生産体制の強化
- ・機械化一貫体系や高度な環境制御技術の導入による生産性の一層の向上
- ・食品関連産業との連携強化による加工・業務向け品目の更なる生産拡大
- ・企業や個人の新規参入促進に向けた環境整備

(特産)

- ・安全な原木確保、既存産地の維持

3 重点振興品目 23品目(内訳 野菜15、花き4、果樹3、特用林産1)

(1) 県戦略品目 14品目(内訳 野菜9、花き2、果樹2、特用林産1)

区分	品目名	振興方向
		具体的振興方策
野菜	いちご	環境に配慮した省力防除の実践による周年出荷産地の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・経営規模の拡大 ・新規生産者の確保 ・収量向上対策 ・病虫害防除の徹底 ・夏秋作型の品種選定 ・栽培履歴情報の記録と情報開示による産地情報の発信
	きゅうり	共同選果場等の利用による分業化と環境制御による高品質・高収量の実現 <ul style="list-style-type: none"> ・新規栽培者の確保と育成 ・栽培技術の高度化支援 ・難防除病虫害対策 ・市場評価維持向上対策
	トマト	生産目標の明確化と共同出荷体制の実現 <ul style="list-style-type: none"> ・栽培面積の増加 ・栽培管理技術の高位平準化 ・利用用途に応じた品種の検討 ・共販に向けた組織化 ・地産地消に向けた販路拡大とブランド化推進
	ほうれんそう	栽培環境の改善と徹底した土づくりによる生産性の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・作付面積の拡大と栽培技術支援 ・連作障害回避技術の確立 ・差別化商品の開発・支援 ・実需者との積極的な交流
	ねぎ類	新規栽培者の確保と機械化による生産規模拡大 <ul style="list-style-type: none"> ・栽培技術の向上支援 ・新規栽培者の確保 ・病虫害対策支援 ・市場評価向上対策
	たまねぎ	機械化体系等省力技術の導入による生産拡大 <ul style="list-style-type: none"> ・安定生産技術の普及 ・経営モデルに基づく機械化体系の普及 ・新規栽培者の確保 ・栽培履歴情報の記録と情報開示による産地情報の発信 ・加工業務向け契約栽培の拡大 ・多様なニーズにあわせた販売の推進
	キャベツ	病害対策の徹底による安定生産と機械等省力化による生産拡大 <ul style="list-style-type: none"> ・栽培技術の向上支援 ・新規栽培者の確保 ・病虫害対策支援 ・市場評価向上対策
	ばれいしょ	基本技術の徹底による加工用ばれいしょの安定生産 <ul style="list-style-type: none"> ・新規栽培者の確保 ・栽培技術の向上支援 ・病虫害対策 ・運搬・調整体制の効率化

野菜	えだまめ	サプライチェーンによるえだまめの供給基地の育成
		<ul style="list-style-type: none"> ・新規栽培者の確保 ・品種・作型検討の支援 ・生産工程管理の実践支援 ・品種統一による販売の促進
花き	スプレーぎく	夏季冷涼な気候を生かした生産体制の確立 <ul style="list-style-type: none"> ・経営規模の拡大 ・新規生産者の確保 ・組織活動の強化 ・施設回転率の向上 ・共選販売体制の強化 ・消費拡大対策 ・人と環境に優しい産地の育成
	鉢もの類・ 花壇用苗もの類	実需者ニーズに対応した品目や品種の導入による経営力強化 <ul style="list-style-type: none"> ・需要期に出荷できる栽培技術の習得 ・花き生産安定に向けた経営支援 ・規模拡大や法人化支援 ・ニーズに対応した生産供給 ・生産者の連携強化
果樹	りんご	栽培技術・販売力の高位維持と省力樹形の導入推進 <ul style="list-style-type: none"> ・栽培技術の高位維持 ・低樹高栽培面積の拡大による省力化 ・新品種導入による気象リスク分散、労力分散 ・担い手の技術向上、部会活動の活性化 ・新品種導入による商品レパートリーの充実 ・多様な販売ルート確保
	ぶどう	需要に対応できる高品質・安定生産の確立 <ul style="list-style-type: none"> ・栽培技術の高位維持 ・温暖化等気象変動への対応 ・新品種導入による商品レパートリーの充実 ・多様な販売ルート確保
特用 林産	しいたけ	適切な栽培管理による安全・安心なしいたけ栽培の確立 <ul style="list-style-type: none"> ・放射能汚染対策 ・原木の安定確保 ・安全・安心の確保 ・安定的な販路の確保

(2)地域戦略品目 9品目(内訳 野菜6、花き2、果樹1)

区分	品目名	振興方向
		具体的振興方策
野菜	なす	省力化による良品質なす産地の維持発展 ・新規栽培者の確保、栽培技術の向上支援、病害虫対策 ・市場評価向上
	かぼちゃ	適切な着果管理による良質かぼちゃの安定生産 ・新規栽培者の確保、栽培技術の向上支援、病害虫対策 ・市場評価向上対策
	にら	ハウスを利用した作期の拡大と出荷量の向上 ・新規栽培者の確保、栽培技術の向上支援、病害虫対策 ・ブランドイメージ向上対策
	にんにく	たい肥等の地域資源を生かした土づくりによる生産力向上 ・新規栽培者の確保、栽培技術の向上支援、病害虫対策 ・ブランドイメージ向上対策
	そらまめ	病害対策等の徹底による高品質そらまめの安定生産 ・栽培技術の向上、新規栽培者の確保、病害虫対策 ・市場評価向上対策
	ゆきな	秋から春にかけて出荷のバリエーション豊かなゆきなの生産振興 ・作付面積の拡大と栽培技術支援、連作障害回避技術の確立 ・差別化販売に対応できる栽培の検討
花き	トルコギキョウ	長期安定生産による所得向上と産地の育成 ・経営規模の拡大、新規栽培者の確保、栽培技術の平準化、長期安定生産の確立 ・共選共販体制の強化、消費拡大対策、人と環境に優しい産地の育成
	ストック	高品質安定生産による収益性の向上 ・新規栽培者の確保、組織活動の強化、良品安定生産による所得向上 ・共選共販体制の強化、消費拡大対策、人と環境に優しい産地の育成
果樹	もも	需要に対応できる高品質・安定生産の確立 ・栽培技術の高位維持、温暖化等気象変動への対応 ・新品種導入による商品レパートリーの充実、多様な販売ルートの確保、加工による規格外果実の活用

石巻圏域の園芸特産振興方向

1 園芸特産の現状と課題

(共通)

東日本大震災により管内の園芸産地は甚大な被害を受けましたが、国の交付金事業等により園芸施設の復旧・建設が進み、平成29年3月には園芸施設の100%、27.92haが復旧しました。販売額も平成30年度のJAいしのまき園芸品目取扱実績が28億円(共販+直売)に達し、震災前と同程度まで回復しています。

特徴的な取組として、県内有数の生産を誇るトマト、きゅうり、いちごについては、石巻市須江及び蛇田地区に園芸団地が整備され、パプリカについても次世代型の栽培が実証されるなど、大規模園芸経営体を中心に生産が順調に拡大しています。また、環境制御技術やIPM技術の導入による収量向上等への取組も進められています。

担い手の状況については、年間販売額5千万円以上の先進園芸経営体は19経営体で、管内園芸生産を牽引していますが、新たな環境制御技術や養液栽培技術の普及、定着及び経営体の安定経営に向けた支援が必要です。

(野菜)

石巻市及び東松島市がトマト(夏秋)、きゅうり(冬春)、ねぎ(秋冬)の指定産地になっています。いちご、こねぎ、せりは県内で主要な産地となっており、ほうれんそう、長ねぎも1億円以上の産出額となっています。特に「河北せり」は令和2年12月に県産青果物として初の地理的表示(GI)保護制度登録となり、今後産地ブランドを活かし、販売力の強化を図る必要があります。

東日本大震災後、石巻圏域では多くの法人が設立され、大規模化が進んでいます。また、復興関連事業により大型の栽培施設が多数導入されるなど園芸団地が形成されました。特に、石巻市北上地区ではパプリカ及びトマトを生産する大規模な次世代型の園芸施設が建設され、平成28年から出荷が開始されました。

さらに、水田における大規模露地野菜の取組として加工・業務用向けばれいしょの栽培が始まっており、機械化体系による生産が行われています。

一方、従来からの個別経営体では、パイプハウスの多くが老朽化しているものの更新は進んでおらず、また、いずれの品目においても栽培者の高齢化が進行し、後継者も不足しています。

近年は、農林産物直売施設や大型スーパーのインショップなどの販売実績が増加傾向にあり、需要の細かな変化に対応できる少量多品目の生産に取組む経営体も増加しています。

(花き)

石巻圏域における花きの産出額は約4億円で、石巻市河北・河南地区及び東松島市矢本地区では輪ぎくが、東松島市鳴瀬地区ではスプレーぎくが生産されています。河北地区では、平成26年度から法人による輪ぎく等の生産が行われています。

また、石巻市桃生地区ではガーベラを周年生産しており、東北一の産地となっています。

鉢もの類等は、鳴瀬地区の法人や桃生・河南地区の個別農家によるシクラメンを中心として、花壇用苗ものを含めた産地化が図られています。

原油高騰による資材費及び暖房費等が増加している一方、販売単価も低迷していることから、収益性の向上が求められています。

(果樹)

東松島市矢本地区や石巻市河南地区でぶどうの施設栽培が行われていますが、規模は小さく、個別販売となっています。他方、ここ数年、農協による取組もあり小規模ではありますが、育苗ハウス等で「シャインマスカット」を中心とした新植の動きが見られます。

ブルーベリー等の小果樹については、数戸で栽培されていますが規模は小さく、新規栽培者の掘り起こしが必要となっています。

東松島市宮戸地区では、津波被災から復旧する農地に平成28年度からいちじく、もも、かきが約3ha植栽され、平成29年に初収穫を迎えています。

平成26年度から石巻市で市事業によりオリーブの栽培試験が行われており、平成30年春現在で約4.8ha植栽され、現地適応性等についての検討を行っています。

(特用林産物)

石巻圏域における平成30年度の栽培きのこ生産量は約19t、うちしいたけが68% (約13t) となっています。そのうち、石巻市では原木・菌床しいたけや菌床まいたけ等の施設栽培が行われており、東松島市では菌床しいたけ、きくらげ等の施設栽培が行われています。

原木しいたけについては、東京電力(株)福島第一原発事故による放射性物質汚染の影響で露地栽培の出荷が制限された結果、生産者が大幅に減少し、現在は2戸のみですが、うち1戸は令和2年7月に出荷制限が解除されました。今後も、引き続き安全な他県産原木の安定確保及び自県産原木の使用再開、放射性物質対策作業マニュアルに基づいた生産等により、出荷制限解除に向けた取組を進め、産地の再生を図る必要があります。

菌床しいたけについては、放射性物質に汚染されていない菌床生産資材(オガ粉等)の安定確保による経営の安定化と品質向上による収益確保を図る必要があります。

[重点振興品目の生産の現状]

区分	品目名	作付面積 (ha)	収穫量 (t, 千本(鉢))	産出額 (千万円)	区分	品目名	作付面積 (ha)	収穫量 (t, 千本(鉢))	産出額 (千万円)	
野菜	いちご	11.2	387.6	43.8	花き	輪ぎく	6.2	1,701	11.8	
	きゅうり	30.9	1634.0	47.6		鉢もの類・花壇用苗もの類	2.7	1,520	11.1	
	トマト	24.5	1052.2	46.2		ガーベラ	1.1	4,239	9.3	
	ほうれんそう	24.1	210.7	11.8		果樹	ぶどう	4.2	8.2	0.3
	パプリカ	1.3	299.0	14.0	いちじく		10.7	20.0	0.7	
	ねぎ類	47.1	893.3	42.2	特用林産	しいたけ		12.1	1.2	
	えだまめ	4.6	16.1	0.9		※ 野菜:「H30農協販売実績」、花き:「H30花き産業振興総合調査」、果樹:「H30特産果樹生産動態等調査」、特用林産:「H30特用林産物需給動態調査」				
	ばれいしょ	10.0	298.0	1.3						
	せり	5.3	81.0	10.9						
	スイートコーン	13.9	70.5	1.6						
	はくさい	8.2	153.0	1.2						
	ちぢみゆきな	2.7	35.8	1.0						

2 園芸特産振興の方向性

- ・将来の園芸生産の中核となる雇用型農業法人の経営の安定と地域への定着
- ・コスト低減技術の確立による収益性の向上と経営の高度化
- ・生産工程管理の強化による事故防止と消費者からの信頼醸成
- ・農協と法人との連携による有利販売に向けた検討
- ・水田等における加工・業務用野菜産地の拡大
- ・環境制御技術等の活用による生産性と品質の向上

3 重点振興品目 18品目(内訳 野菜12、花き3、果樹2、特用林産1)

(1) 県戦略品目 13品目(内訳 野菜9、花き2、果樹1、特用林産1)

区分	品目名	振興方向
野菜	いちご	いちごの生産振興及び収量安定化 良品質・安定生産に向けた技術の確立、ニーズに応じた販売力の強化
	きゅうり	安定供給体制の強化による産地の維持・拡充と先端技術の定着 生産力と品質を高める栽培技術の高度化
	トマト	施設園芸栽培の強化による産地の育成 生産力と品質を高める技術の高度化、安全・安心確保の推進
	ほうれんそう	地域周年生産体制による供給力の強化 生産力と品質を高める技術の高度化、安全確保の推進
	パプリカ	需要に対応した生産体制の整備と経営の安定化 高度な環境制御による生産力向上と高品質化、多様な需要に対応した販売力の強化
	ねぎ類	機械化・省力化の推進と生産技術の高位平準化 安定的な周年出荷に向けた技術力向上、販売チャネルの拡大推進
	えだまめ	「伊達な茶豆」ブランドを活用した産地の発展 水田における作付推進、情報共有による販売体制整備
	ばれいしょ	水田を利用した加工用ばれいしょの生産振興 ほ場整備を活かした輪作体系による持続的な安定生産技術の推進
	せり	「河北せり」の高品質生産による産地ブランドの強化 地域特産野菜として市場の要求に応えられる生産力の強化
花き	輪ぎく	高品質で安定した生産体制の整備 経営の効率化と産地の維持、直売や契約販売等多様な需要に対応した販売力の強化
	鉢もの類・ 花壇用苗もの類	消費者ニーズに対応した品目の導入と品質の安定化による生産体制の確立 経営感覚に優れた担い手の確保、多様な需要に対応した販売力の強化
果樹	ぶどう	直売所出荷を中心としたぶどうの生産拡大 新規就農者の掘り起こし及び産地化の推進
特用林産	しいたけ	高品質安定生産による産地の維持と地位向上 出荷制限解除に向けた試験栽培と協議会設立、安全な生産資材の確保と品質向上に向けた生産管理の徹底

(2)地域戦略品目 5品目(内訳 野菜3、花き1、果樹1)

区分	品目名	振興方向
		具体的振興方策
野菜	スイートコーン	高品質・安定供給体制確立による産地の維持・拡充 病害虫防除等栽培技術指導の継続的な実施
	はくさい	「仙台白菜」の供給地としてブランド定着 安定した品質、収量の確保と県内向けプロモーション活動
	ちぢみゆき菜	高品質生産による産地の維持・発展 栽培技術の平準化による品質向上
花き	ガーベラ	需要動向に対応した品種構成による産地競争力の高位安定化 ほ場環境に合った高生産性品種の選定と全国産地と連携した販売戦略の展開
果樹	いちじく	栽培技術の向上と立地条件を活かした地域振興への貢献 新植面積の拡大に向けた誘導と基本的な栽培技術向上の支援

気仙沼・本吉圏域の園芸特産振興方向

1 園芸特産の現状と課題

(共通)

農業生産額は、東日本大震災により39.1億円(平成18年)から25.2億円(平成25年)と大幅に落ち込んだものの、現在は30.3億円(平成30年)まで回復しています。

農業生産額に占める園芸の割合は29%(平成30年)ですが、高齢化等により生産者が減少しており、新規栽培者の掘り起こし、地域の担い手の育成が課題となっています。

(野菜)

野菜の主要な品目は、いちご、トマト、ねぎ、こまつな等です。

いちごは、震災で栽培施設が大きな被害を受けましたが、若手を中心に補助事業を活用した栽培施設の復旧が行われ、作付面積は震災前の面積に回復しました。トマトは、管内法人による補助事業を活用した大規模な施設栽培が開始され、生産量は増加しています。ねぎは、ほ場整備地において作付けが進み、露地野菜の主力品目となっています。

一方で、内陸部での作付けの減少や沿岸部における復旧農地の営農再開が進まない等の課題があるほか、「春告げやさい」や「気仙沼茶豆」等の特色あるブランド品目の定着が今後の課題となっています。

(花き)

花きの主要品目は輪ぎくです。輪ぎくは、震災で栽培施設が大きな被害を受け、若手を中心に補助事業の活用により栽培施設は復旧していますが、生産者の高齢化が進んでいます。また、小ぎく及びスプレーぎくの作付けも行われており、輪ぎくに次ぐ主力品目ですが、安定生産に向けた栽培技術の平準化が課題です。

近年では、未利用農地等を活用した枝物用クロマツの作付けが行われており、栽培面積の拡大や集出荷体制の整備が課題となっています。

(果樹)

果樹の主要品目はりんごです。りんごは、贈答用などの個別販売が中心となっていますが、生産者の高齢化により生産規模が縮小しており、樹園地の維持・管理が課題となっています。また、小果樹類(ベリー類など)の取組も見られますが、生産性の向上等が課題です。

近年は、ぶどうの栽培面積が拡大傾向にあり、直売所や個人宅配を中心に販売が行われています。栽培歴の浅い生産者が多いため、各生産者の栽培技術向上が課題です。

(特用林産物)

東京電力(株)福島第一原発事故による放射性物質の拡散により、露地栽培原木しいたけは平成24年4月から出荷制限となっています。平成27年から29年にかけて南三陸町で3名、気仙沼市で1名の計4名が出荷制限解除となりました。しかし、その後新規の制限解除者はおらず、生産者数は頭打ちとなっています。

菌床しいたけは、生産事業体2社のうち1社が撤退したものの、平成28年度から令和2年度まで生産量は横ばいで推移し、安定した生産が行われています。また、残った1社はGAP認証を取得し、販路の安定化に取り組んでいます。

ふきは、生産工程に手作業が多いことから生産者・生産面積共に減少傾向にあります。また、近年根株がうまく発達せず、生産量が抑制される要因となっています。

〔重点振興品目の生産の現状〕

区分	品目名	作付面積 (ha)	収穫量 (t, 千本 (鉢))	産出額 (千万円)	区分	品目名	作付面積 (ha)	収穫量 (t, 千本 (鉢))	産出額 (千万円)	
野菜	いちご	2.7	49.0	7.1	果樹	りんご	10.1	158.4	2.6	
	きゅうり	2.5	72.0	3.0		ぶどう	3.7	1.7	0.1	
	トマト	2.3	470.0	14.8		小果樹類	1.3	2.9	0.4	
	ほうれんそう	1.9	21.0	1.5	特用 林産	しいたけ	-	96	9.61	
	ねぎ類	19.0	226.0	6.4		ふき	-	25	1.05	
	えだまめ	5.0	8.0	0.6		※ 野菜:「H30農協販売実績」、花き:「R1 花き産業振興総合調査」(枝もの類(ま つ):H30作付者聞き取り)、果樹:「H30 特産果樹生産動態等調査」、特用林 産:「H30特用林産物生産統計調査」				
	なばな類	0.9	3.0	0.4						
	こまつな	9.1	118.0	4.5						
花き	輪ぎく	9.5	2,178	12.9						
	スプレーぎく	1.3	409	2.4						
	小ぎく	0.9	247	0.9						
	枝もの類(まつ)	0.2	0	0.0						

2 園芸特産振興の方向性

(1) 施設園芸の推進

- ・いちごやトマト、きく類等の主力品目の安定生産を図る。
- ・補助事業等を活用して施設化を進め、栽培面積の拡大や単収の向上を図る。
- ・省エネルギー施設や技術の導入により、生産コストの低減を図る。

(2) 露地園芸の推進

- ・ねぎの単収、品質向上のため、土づくりや排水対策を推進する。
- ・復旧農地での園芸品目の作付けを推進し、生産額の向上を図る。
- ・少ない労力でも栽培できる品目、栽培方法を提案し、生産面積の拡大を図る。

(3) 消費者ニーズや需要期に応じた販売戦略の展開

- ・地産地消と観光客の購入増を図るため、果樹等の直売所向けの品目数や生産量の拡大を図る。
- ・「春告げやさい」、「気仙沼茶豆」等の特色ある園芸特産品目のブランド化を推進する。

(4) 担い手の育成

- ・農業協同組合の各生産部会等の活動を支援し、生産者の栽培技術向上を図る。
- ・地域外からの参入者を含め、多様な担い手を確保し、地域園芸の担い手として支援、育成する。

3 重点振興品目 17品目 (内訳 野菜8、花き4、果樹3、特用林産2)

(1) 県戦略品目 11品目 (内訳 野菜6、花き2、果樹2、特用林産1)

区分	品目名	振興方向
		具体的振興方策
野菜	いちご	高品質で効率の良い生産技術の確立と販売体制の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・環境制御技術等による生産性・品質の向上 ・IPMの実践による病害虫防除体系の確立 ・市場や実需者が求める生産物の安定供給
	きゅうり	栽培技術の高度化による生産の維持・強化 <ul style="list-style-type: none"> ・環境制御技術等による生産性・品質の向上 ・IPMの実践による病害虫防除体系の確立 ・暑熱対策や軽労化技術の推進 ・市場や実需者が求める生産物の安定供給
	トマト	市場評価の高い安定した産地力の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・大規模施設における生産・経営の安定 ・市場や実需者が求める生産物の安定供給
	ほうれんそう	周年供給体制の確立と特色ある産地づくり <ul style="list-style-type: none"> ・安定生産に向けた栽培技術の向上 ・市場や実需者が求める生産物の安定供給
	ねぎ類	生産体制の確立による栽培面積拡大と生産量の確保 <ul style="list-style-type: none"> ・復旧農地での安定生産 ・生産量・品質の確保 ・市場や実需者が求める生産物の安定供給
	えだまめ	産地拡大によるブランドの確立 <ul style="list-style-type: none"> ・栽培面積の拡大 ・需要に対応した生産量・品質の確保 ・地域ブランドの確立
花き	輪ぎく	高品質で安定した生産による産地の確立 <ul style="list-style-type: none"> ・需要期及び周年出荷に向けた安定生産 ・栽培管理の徹底による品質の向上 ・市場や実需者が求める生産物の安定供給
	スプレーぎく	効率的な周年生産体制の確立 <ul style="list-style-type: none"> ・需要期及び周年出荷に向けた安定生産 ・栽培管理の徹底による品質の向上 ・市場や実需者が求める生産物の安定供給
果樹	りんご	生産力の向上による産地の維持 <ul style="list-style-type: none"> ・安定生産活動の推進 ・環境にやさしい栽培技術の普及 ・新たな需要に応じた品種選択 ・地産地消の推進 ・生産管理の徹底
	ぶどう	作付けの拡大と栽培技術の向上による産地形成 <ul style="list-style-type: none"> ・安定生産活動の推進 ・地産地消の推進 ・安全・安心な農産物加工 ・生産管理の徹底

特用 林産	しいたけ	高品質で安定した生産による産地の維持
		<ul style="list-style-type: none"> ・安定生産活動の推進 ・出荷制限解除支援 ・計画出荷体制の確立 ・地産地消の推進

(2) 地域戦略品目 6品目 (内訳 野菜2、花き2、果樹1、特用林産1)

区分	品目名	振興方向
		具体的振興方策
野菜	なばな類	地域ブランドの保持と販売体制の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・需要に対応した生産量の確保 ・地域ブランドの保持
	こまつな	周年供給体制の確立と特色ある産地づくり <ul style="list-style-type: none"> ・安定生産と周年体制の確立 ・地域ブランドの向上
花き	小ぎく	夏季冷涼な気候を生かした産地形成 <ul style="list-style-type: none"> ・需要期出荷に向けた安定生産 ・適切な栽培管理による品質の向上 ・市場や実需者が求める生産物の安定供給
	枝もの類(まつ)	作付けの拡大と産地化に向けた生産体制の確立 <ul style="list-style-type: none"> ・安定生産に向けた栽培体系の確立 ・ニーズに対応した生産物の供給体制整備
果樹	小果樹類	栽培技術の向上による産地の維持 <ul style="list-style-type: none"> ・安定生産活動の推進 ・地産地消の推進 ・生産管理の徹底
特用 林産	ふき	生産量の安定化による産地維持 <ul style="list-style-type: none"> ・連作障害の回避

宮城県 農政部 園芸推進課

〒980-8570 宮城県仙台市青葉区本町三丁目8番1号

TEL : 022-211-2843 FAX : 022-211-2849